
貧酸素情報

鹿児島県水産技術開発センター
 平成27年10月21日(水)

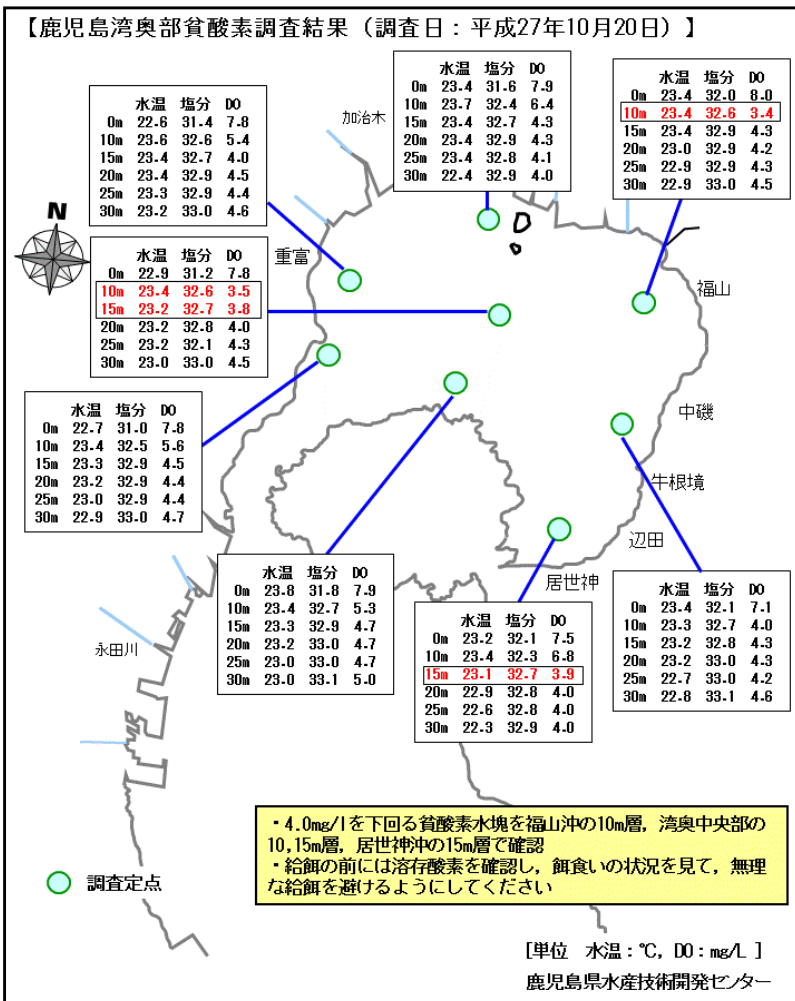
鹿児島湾 貧酸素情報 No.3

[1] 10月20日の調査結果

- (1) 貧酸素水塊の状況
 福山沖、湾奥中央部、居世神沖の10~15m層で、溶存酸素量が4.0mg/lを下回っていました(下図参照)。
- (2) 赤潮生物の出現状況
 珪藻類は、少ない状況でした。
 有害種であるシャットラハータが最高2細胞/ml確認されました。
 フロセトラムバルカムが最高8400細胞/ml確認されました。
- (3) 海況
 表層水温は湾中央部で23.5~24.3℃、湾奥部で22.6~23.8℃で平年同時期よりやや低め。塩分は31.0~33.3と平年同時期並み、透明度は5.0~10.0mで平年同時期よりやや低めとなっています。
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|-------|------|-------|
| 水温：平均 | 23.4℃ | 湾奥部 | 23.2℃ | 湾中央部 | 24.1℃ |
| 塩分：平均 | 32.0 | 湾奥部 | 31.7 | 湾中央部 | 33.0 |
| 透明度：平均 | 6.9m | 湾奥部 | 6.4m | 湾中央部 | 8.3m |
- (平年値は平成14~26年の10月の平均値)

[2] 今後の貧酸素水塊の予想

10m~15m層で確認された貧酸素水塊は、ほぼ同一水深で増殖したフロセトラムバルカムの酸素消費による影響が考えられます。
 湾奥部は0~30m層の水温がほぼ均一となっており、今後鉛直循環が活発になると思われます。しかし、溶存酸素量が低いところがありますので、しばらくは注意が必要です。



(注意事項)

- 給餌の際、魚群が遊泳すると、貧酸素層の海水が表層まで浮き上がるおそれがあります。
- 過去、溶存酸素が4.0mg/lを下回った状況での給餌で、へい死事故が発生した事例がありますので、注意が必要です。
- 給餌の前には、必ず溶存酸素量を確認し、餌食いの状況を見て、無理な給餌を避けた方がよいでしょう。

赤潮情報(携帯電話)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>
 赤潮情報(パソコン)：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>